

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 2 月 6 日  
東京電力株式会社

## <タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

### [処理設備]

- ・H24/1/17 18:42 セシウム吸着装置を起動。18:45 定常流量に到達。
- ・H24/2/2 11:12 第二セシウム吸着装置を起動。11:15 定常流量に到達。

### [貯蔵設備]

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

## トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・2/3 16:07～ 2/6 8:47 移送実施
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・2/5 9:49～ 移送実施中
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・2/6 10:00～16:00 移送実施

移送先	移送先の水位状況 (2/6 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 3,183 mm(水位上昇累計:4,400 mm) 2/5 7:00 から 150 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 3,371 mm(水位上昇累計:4,097 mm) 2/5 7:00 から 384 mm 上昇

## トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (2/6 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. < + 850 mm (2/5 7:00 と同じ)	O.P.+ 2,861 mm (2/5 7:00 から 14 mm 上昇)	O.P.+ 4,256 mm (2/5 7:00 から 7 mm 下降)
2号機	O.P.+ 3,036 mm (2/5 7:00 から 8 mm 下降)	O.P.+ 3,008 mm (2/5 7:00 から 9 mm 下降)	O.P.+ 3,179 mm (2/5 7:00 から 7 mm 下降)
3号機	O.P.+ 3,024 mm (2/5 7:00 から 11 mm 下降)	O.P.+ 2,938 mm (2/5 7:00 から 26 mm 下降)	O.P.+ 3,246 mm (2/5 7:00 から 21 mm 下降)
4号機	-	O.P.+ 2,946 mm (2/5 7:00 から 4 mm 下降)	O.P.+ 2,973 mm (2/5 7:00 から 1 mm 上昇)

## <放射性物質のモニタリング>

### 海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約30m	2/5	8:25	ND	0.04	0.03
福島第一 1～4号機放水口南側約330m	2/5	8:10	ND	0.03	0.02
福島第二 3,4号機放水口付近	2/5	8:15	ND	ND	0.02

その他、福島県沿岸1地点(2/5 採取分)および沖合3地点(2/4 採取分)における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)は全てND。なお、福島県沖合2地点は、悪天候のため採取中止。

<使用済燃料プールの冷却> (2/6 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*1	20.5
2号機	循環冷却システム	運転中	13.0
3号機	循環冷却システム	運転中	28.0
4号機	循環冷却システム	運転中	25

\*1 システム二次系エアフィンクーラー：停止中

[2号機]・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

・2/4 22:56 塩分除去装置において「RO 高圧ポンプ吸込圧力低圧異常」の警報が発生し、同装置が自動停止（なお、インターロックにより系統の隔離弁は全て全閉）。現場確認の結果、同装置からの漏れはなし。使用済燃料プール代替冷却システムは継続して運転しており、プールの冷却に対する影響はなし。

2/5 17:35 同装置を再起動し、異常が見られないことを確認。なお、RO高圧ポンプ吸込圧力に異常が確認されなかったことから、今後も継続して監視を実施。

[3号機]・1/14 15:18～ 使用済燃料プールの放射性物質除去のため、放射性物質除去装置の運転を開始。

・2/6 9:55～ 使用済燃料プール水温度が上昇してきたことから、二次系冷却塔を起動。

<原子炉压力容器への注水・原子炉の状況> (2/6 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.6 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約2.0 m <sup>3</sup> /h)	24.4	24.5	107.0 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約6.8 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約3.6 m <sup>3</sup> /h)	45.5	71.0	110 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約2.9 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約6.0 m <sup>3</sup> /h)	41.2	50.1	101.6 kPaabs

[2号機]・2/2 以降、原子炉压力容器底部の温度上昇の傾向が大きくなったことから、2/3 19:20、給水系からの注水量を約2.9 m<sup>3</sup>/h から約4.9 m<sup>3</sup>/h、炉心スプレイ系からの注水量を約5.8 m<sup>3</sup>/h から約3.8 m<sup>3</sup>/h に変更(2/1 流量調整前の注水量に変更)。その後、原子炉压力容器底部ヘッド上部温度について傾向監視を行っていたところ、再び当該温度に上昇傾向が見られたことから(約66.1 [2/4 23:00 時点])、2/5 0:52、給水系からの注水量を約4.8 m<sup>3</sup>/h から約5.8 m<sup>3</sup>/h に変更(炉心スプレイ系からの注水量は約3.8 m<sup>3</sup>/h で継続)。その後、原子炉压力容器底部ヘッド上部温度について傾向監視を行っていたところであり、70 前後で推移していたが(約70.3 [2月5日午後11 時時点])、より一層温度の上昇傾向を抑制する観点から、あらためて原子炉への注水量を増加することとし、2/6 1:29、給水系からの注水量を約5.8 m<sup>3</sup>/h から約6.8 m<sup>3</sup>/h に変更(炉心スプレイ系からの注水量は約3.8 m<sup>3</sup>/h で継続)。現在は71.6 (2/6 16:00 時点)。引き続き、傾向監視中。

[4号機][5号機][6号機]・特に変化なし

<その他>

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を継続実施中。

・H24/1/11～ 集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)間のトレンチにおける放射性物質を含む水溜まりの発見(H23/12/18)を受け、発電所構内のその他のトレンチ等の点検を開始。

日々の点検結果については別途参考配布資料を参照

・H24/2/5 20:05 頃 パトロールを実施していた当社社員が6号機屋外消火系配管の弁フランジ部より水の漏れを確認。20:31 頃 当該フランジ部の上流側の弁を閉止し、20:49 頃、漏れいの停止を確認。なお、漏れいた水はろ過水であり、付近に排水溝はないため、海への流出はないと思われる。

・H24/2/6 12:28 頃 濃縮水貯槽タンク群において、当社社員が濃縮水貯槽タンク1基から漏れいがあることを発見。タンクの継ぎ手部のボルトを増し締めし、同日 14:03、タンクの継ぎ手部からのにじみが停止していることを確認。タンクを設置しているコンクリートの表面に継ぎ手部のにじみから伝わった水がにじんでいるが、側溝等への流れ込みはなく、海洋への流出はない(念のため、同日 14:45、周辺に土のうを設置済)。にじみのある継ぎ手部の直下のコンクリート基礎部の線量率を測定したところ、ガンマ線 20mSv/h、ベータ線 250mSv/h であることを確認。漏れい水は淡水化装置(逆浸透膜)で処理した後の濃縮水(塩水)で漏れい量は約0.6 リットルと推定。

・H24/2/6 8:44～13:03 2号機原子炉建屋開口部(ブローアウトパネル)のダストサンプリングを実施。

・H24/2/6 2号機原子炉格納容器ガス管理システムのチャコール・粒子フィルタ・バイアル瓶のサンプリングを実施。

以上